

## 古代大宰府関連史跡を広域的に活用した地域振興・浮揚に関する陳情

### 1. 要旨

水城跡・大野城跡・基肆城跡などの大宰府関連の古代山城遺跡を関係市町と連携して活用することを求めます。

### 2. 理由

国の特別史跡でもある水城跡・大野城跡、基肆城跡は平成 26 年・27 年に築造から 1350 年を迎えました。これらの施設は大宰府政庁を守る役割を一体的に果たしていたと考えられます。

昨年 11 月末の新聞報道によると、筑紫野市若江前畑遺跡で、水城と同様の版築工法によって築造された同時代・7 世紀後半の土塁が発見され、この土塁もまた大宰府を守る役割を担っていたと考えられています。前畑遺跡の土塁の出現によって、大宰府を取り巻く一連の城郭遺跡の存在が確実視され、それが日本最古級の大宰府防衛施設であり、古代大宰府の東アジアでの位置づけにおいても大変注目されています。大宰府市の古代の史跡等は昨年日本遺産に認定され、本市においても普及活動がおこなわれていますが、同様の遺跡である韓国扶余の扶蘇山城はすでに世界遺産に認定されています。前畑遺跡の土塁の出現によって扶蘇山城より壮大な規模となる大宰府防衛ラインは、今後の大宰府研究における新たな進展と広がりを示唆するものです。

前畑遺跡での土塁の新発見を契機に、大宰府に関連する古代遺跡のある筑紫野市、大野城市、春日市、宇美町、佐賀県基山町、福岡県、佐賀県などの近隣市町や県と連携して史跡の活用を推進し、さらに民間と協働した広域的な大宰府観光のモデルを構築し、もって一層の効果的な地域浮揚を図ることを要望します。

平成 29 年 2 月 16 日

大宰府市議会議長 殿

